



ふねあいのひろば

第19号



平成15年 4月21日岡山市新竹市友好交流協定締結

ごあいさつ

会長 野津 喬



昨年6月、当協議会の会長を仰せつかってから早いものですでに1年近くになりますが、この間、会員の皆様には当協議会の運営に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

国際化が年々加速していると言われる中、平成15年度は岡山市の国際交流についてもいくつかの特筆すべきことがありました。その第1は、新年度早々の4月21日、台湾新竹市との間で友好交流協定が結ばれ、一昨年の韓国富川市に次いで6番目の新しい国際友好交流都市が誕生したことであります。当協議会としても、両市の市民の間で胸襟を開いた「ひとつきあい」が幅広く、力強く、未永く行われ、そして、その中から真の信頼と強い心の絆が培われるよう、大いなる支援をしてみたいと考えているところであります。もとより、古い友人でありますサンノゼ市や洛陽市などと多年にわたって育ててまいりました友情を大切にしながら、友好関係をさらに発展させていかなければならないのは言うまでもないことであります。その第2は、これまでの友好交流に幅と厚みが加わってきつつあることであります。その例を富川市との交流に取りますと、従来の市民訪問団の往来に加え、岡山からはジュニアオーケストラの訪富、富川からは舞踊団や美術協会一行の来岡などと、市民交流の分野が多様化してきたことであります。また、洛陽との交流では、SARSの影響で、岡山の技術研修生が一時帰国を余儀なくされたものの、その後洛陽大学へ戻り、勉学に、友好活動にと頑張っており、今後のますますの活躍が期待されるところであります。

一方、SARSのため、子供海外派遣事業や子ども国際サマーキャンプなどの事業が中止のやむなきに至ったことは大変残念なことでありますが、16年度はぜひとも実施したいと考えている次第です。子ども対象の事業は、将来の国際親善の基盤固めのために極めて重要なものであるからであります。特に、サマーキャンプでは、子どもたちの共同生活を通じて連帯感や信頼、友情を育むことが最大の狙いであり、その成果を今から楽しみにしているところであります。

このようなことを念頭に置きながら、当協議会が市民の国際交流の一層の進展に意義ある役割を果たしていけるよう努めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層のお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

小坂会長 !!

長い間お疲れ様でした。

平成15年6月10日に開催された臨時総会をもって、小坂淳夫氏が会長を勇退され、新会長にカバヤ食品株式会社代表取締役社長野津喬氏が就任されました。

小坂氏は、平成3年4月以来12年間の長きに渡り、会長として国際交流の推進に多大なご尽力を頂きました。この場をお借りして、長年の御貢献に心から感謝申し上げますとともに、今後ともお元気にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。



萩原誠司名誉会長より感謝状を贈呈

目次

④岡山市新竹市友好交流協定締結	2	友好交流サロン	9
新竹市との交流	3	(1) ユネスココーナーの設置	
富川市との交流	3	(2) 国際交流ふれあい講演会	
○岡山市民友好親善訪韓団 富川市訪問		(3) 外国語教室	
○富川市民岡山市祝祭訪問団・富川ヨウォル小学校農楽団・富川オウンリオン舞踊団 来岡		(4) 日本語教室	
○岡山市・富川市職員相互派遣		(5) ボランティア活躍記	
洛陽市との交流	6	(6) 「あくら」の発行	
第14回洛陽市技術研修生帰国		(7) 無料インターネットサービス	
サンノゼ市との交流	8	地域国際化推進フォーラム	
サンホセ市との交流	9	「サラダボウルおかやま」	13
プロブディフ市との交流	9	第一部 アメリカ先住民による講演と踊り・音楽の夕べ	
		第二部 地域国際化シンポジウム	
		ふれあいトピックス	14
		ホットミニ情報	14
		事務局から (募集中など)	15

祝 岡山市・新竹市友好交流協定締結

岡山市と新竹市の交流は、平成12年8月に締結された岡山市日台友好都市議員連盟一行が、平成12年9月に新竹市を訪問したことから始まり、平成13年4月には同議員連盟が新竹市政府及び同市議会との友好交流に関する覚書の調印を行いました。これを契機に、両市の交流は進展し、岡山市子供海外派遣事業による中学生の新竹市への派遣、ガラス芸術家の交流、市民訪問団の派遣、保育園の姉妹園締結など、幅広い分野で交流の輪が広がってきました。このような交流を経て、平成15年4月21日岡山市役所本庁舎7階大会議室において友好交流協定が締結されました。今後は、「都市と都市」「市民と市民」との友好促進を目的とする基本的な考えに基づき、さらに交流を発展させていきます。



新しくオープンした岡山ドームで新竹市の市花杜鵑（ドウジュエン）と岡山市の市花木サルスベリを記念植樹



記念レセプションでは胡弓にあわせて「ももたろう」を合唱



友好交流協定書

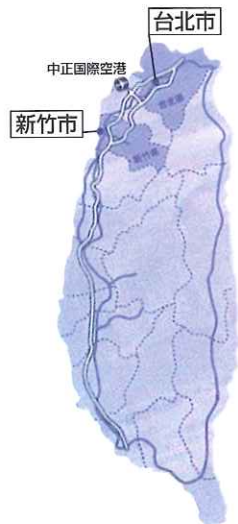
友好交流のあゆみ

- 2000年8月 岡山市日台友好都市議員連盟結成（河和成会長等市議会議員39名、特別会員10名）
- 2000年9月 岡山市日台友好都市議員連盟が新竹市訪問
- 2000年11月 岡山市日台友好都市議員連盟が新竹市訪問
- 2000年12月 新竹市議会義豊副議長及び林則宇副市長をはじめとする新竹市政府市議会日本岡山考察団一行10名が来岡
- 2000年2月 新竹市蔡人堅市長及び鄭成光市議会議長をはじめとする新竹市政府市議会日本岡山考察団一行6名が来岡
- 2001年4月 岡山市日台友好都市議員連盟が新竹市政府及び市議会との友好交流に関する覚書に調印のため新竹市訪問
- 2001年7月 岡山市日台友好都市議員連盟が新竹市訪問
- 2001年7月 岡山市子供海外派遣事業で、中学2・3年生11名を新竹市へ派遣
- 2001年7月 萩原市長、玉光教育長、河合議員連盟会長他が新竹市訪問
- 2001年9月 岡山のガラス芸術家2名が新竹市訪問
- 2002年4月 岡山市日台友好都市議員連盟が新竹市訪問
- 2002年5月 新竹市林政則市長及び政府関係者一行6名が来岡
- 2002年7月 河合議員連盟会長及び市内保育園関係者一行が新竹市を訪問
- 2002年7月 岡山市子供海外派遣事業で中学生2・3年生9名を新竹市へ派遣
- 2002年10月 萩原市長を団長とする岡山市民親善訪問団一行103名が新竹市を訪問
- 2003年1月 かわいい保育園と新竹市光復高級付属託児所が姉妹園を締結

新竹市の概要

- 人 口：38万人
- 面 積：104km²
- 市 制：1982年に市制施行
- 市花・市木：（市花）ツツジ・（市木）黒松
- 気 候：亜熱帯気候 平均気温22.7℃
- 教 育：日本と同じ6・3・3・4制で、中学校までは義務教育
- 行政区域：3区（北区・東区・香山区）
- 概 要

新竹市は台北市の南西約80kmに位置し、清代からの城下町。「新竹風」と言われる季節風が強く、「風の街」とも呼ばれており、この風を利用した新竹ビーフン（米粉）が古くから有名である。また、伝統工芸産業としてはガラス工芸、凧、灯籠、木彫りが盛んである。1980年以降整備されたサイエンスパークには、理工系の学術研究機関が点在し、また内外の300社を超えるハイテク企業が進出しており、現在、台湾のシリコンバレーとして世界のIT産業の最先端を担っている。また、新竹市の17kmにわたる海岸は、北台湾で最大の湿地帯となっており、ここに観光レジャーゾーンが計画され、マングローブ森林公園、バードウォッチング・砂浜・凧上げエリア、自転車道・風力発電所などを建設中である。



新竹市との交流

新竹市国際ガラス芸術祭へのガラス芸術家派遣

昨年秋新竹市で開催された新竹市国際ガラス芸術祭へ、2名のガラス芸術家を派遣しました。この芸術祭では、岡山市で活躍されている13名の芸術家の皆さんのガラス工芸作品31点が展示されました。

(平成15年11月27日～12月2日)



新竹市政府社会福祉及び交通建設考察団来岡

同考察団一行7名は、滞在中、岡山市・市議会表敬、岡山ふれあいセンター、岡山警察交通管制センターなどを訪問し、低床路面電車「MOMO」に試乗しました。

(平成16年2月4日～2月7日)



富川(プチョン)市との交流

岡山市民友好親善訪韓団 富川市訪問

平成14年2月の友好交流協定締結以来、市民レベルでの交流に広がりを見せている富川市へ、平成14年に引き続き締結1周年を記念して岡山市民友好親善訪韓団が派遣されました。この際、富川市をあげての祭典であるボクサゴル(桃の里)芸術祭開幕式において、萩原誠司岡山市長並びに金昌男(キム チャンナム)アジア国際センター代表理事が、日本人ならびに在日韓国人では初めて、「富川市名誉市民証」を贈られました。(平成15年5月3日～5日)



「統一展望台」にて記念撮影



▲「富川市名誉市民証」贈呈▼



中央公園で富川市民と交流

富川市民岡山市祝祭訪問団・富川ヨウォル小学校農楽団・富川オウンリョン舞踊団 来岡

「富川市民岡山市祝祭訪問団」【団長 元惠榮（ウォン ヘヨン）当時富川市長、以下総勢105名】「富川ヨウォル小学校農楽団」【団長 呉性熙（オ ソンヒ）氏、以下総勢65名】、「富川オウンリョン舞踊団」【団長 呉恩領（オウンリョン）氏、以下総勢25名】の3団体が8月1日～3日まで開催された「おかやま桃太郎まつり」に参加するため岡山市を訪問し、パレードへの参加等各種交流事業を通して岡山市民との交流を深めました。また、8月1日の富川市民岡山市祝祭訪問団の歓迎レセプションにおいて、元惠榮（ウォン ヘヨン）富川市長並びに李行涉（イ ヘンソプ）富川市韓日親善協会会長に、岡山市との友好親善に特に貢献したとして、「岡山市国際親善特別名誉市民」の称号が贈呈されました。（平成15年7月31日～8月5日）



▲おかやま桃太郎まつりにて公演



▲元惠榮（ウォン ヘヨン）当時富川市長



▲岡山市民会館で行われた岡山バレエカンパニーとの日韓国際交流公演

富川ヨウォル小学校農楽団

歓迎レセプションにて「岡山市国際親善特別名誉市民」の称号の贈呈

富川オウンリョン舞踊団

▼平島小学校にて交流

▼李行涉（イ ヘンソプ）富川市韓日親善協会会長

▼歓迎レセプションでの記念撮影



岡山市・富川市 職員相互派遣

平成12年4月14日に韓国富川市長が来岡された際に締結された職員相互派遣協定に基づき、この度4回目の職員相互派遣を実施しました。

「富川滞在記」

岡山市から富川市への派遣は、私で4人目となります。ハングルの勉強経験は一切なく、まったく話せない状態で、1月12日(月)富川市へ出発しました。そんな富川市での滞在中に思ったこと、感じたことなどを書いてみました。

1. おどろき やはり、文化、習慣などの違いから結構ありましたが、その中で昼食、夕食などの際、焼酎など少々という場面がそこそこありビックリしました。食事は必ず数人で食べに出かけ、一人で食べるということはありませんでした。また、高層マンションが林立している様は、本当に圧巻でした。
2. 研修 私の場合は、職种的な専門性はないので今までの経験を踏まえてのことや興味のあることを主に聞いてきました。その中で感じたことは、日本と韓国の国家的な政策の違いが自治体の制度の違いにも反映されているということでした。また、数年前の経済危機を経て事業に対する考え方、手法などにもその影響が大きく出ていることも感じました。
3. 交流 様々な交流をさせていただきましたが、特に、スポーツは言

岡山市派遣職員

氏名 道広 浩章（みちひろ ひろあき）
所属 足守支所 総務民生課
派遣期間 平成16年1月12日～3月10日
研修分野 出先機関の業務、観光、地域振興事業



（富川市住民自治課にて）

葉が通じなくても交流できる数少ない手段で、卓球、テニスなどを通じて富川市役所の皆さんと交流ができました。また、もう1つ言葉がそんなに通じなくて何とかなったのがやっぱり飲み会で、私の場合は会話にならないためにかく飲むだけでした。技術的な交流としては、韓国でも富川市だけが行っている電柱などを利用した緑化事業で、その材料を日本へ持って帰ることを緑地公園課の方には快諾していただき、岡山でこの技術を披露できることになりました。また、富川市役所では日本語会話教室があって、そのクラスに出席させてもらい質問などがあれば日本の状況等を説明したりしました。あと、番外で、中国からの派遣職員の方とは、部屋も隣り同士で私がハングルが話せないため、お互いカタコト英会話と筆談（お互いなまっけて聞き取りにくいので）で交流ができました。

4. **これは困った** 会話ができないのは本当に困りました。色々話してみたいのに、それが伝えられないもどかしさを強く感じました。また、英語を話せる人も何人かいたので、英会話の必要性も感じました。

5. **まとめ** 約2ヶ月間の滞在中は、最初のうちはかなり時間を持て余しましたが、研修など始まるにつれて生活のリズム作りができ、また「じっとしているだけでは、物事は動かない。できるだけ自分で積極的に取り組むようにする」という気持ちで解消していきました。やはり慣れない環境では、とにかく気持ちを前向きにすることが大事だということが良く分かりました。滞在にあたって富川市住民自治課の皆さんには本当に色々気を使っただき大変お世話になりました。また貴重な時間を割いて対応して下さいました研修担当者、前担当課の皆さん、岡山市へ派遣職員で行かれた方など、たくさんの方に本当にお世話になり感謝しています。最後に、研修の準備から研修中も様々なことに気づかせていただき、対応して下さいました国際課の皆様には厚くお礼申し上げたいと思います。

「岡山市研修を終えて…」

富川市と岡山市により締結された友好協定に基づき、2003年6月から8月までの間、派遣職員として岡山市で研修を受けた全永杓と申します。短い研修期間ではありましたが、気候が温暖で自然豊かな岡山市の印象は忘れがたく、派遣職員として感じた点を簡略に説明します。

まず、岡山市の地形について説明すると、人口約63万人、面積は513平方キロメートルで富川市の約10倍の面積を有しており、高低差が少ない平野としての特性を有し、南北に2つの大きな川が流れ、水資源が豊富で山水が秀麗な都市です。特に全国的に水がおいしい地域として有名で、ほとんどの市民が水道水を利用しているという点も、富川市の上下水道業務を担当するひとりとして大変うらやましく、上水道を信頼している岡山市民の意識に敬意を表します。

二番目に、岡山市は地震や水害などの自然災害が少ない地方として全国的に有名であり、四季の気候が一年を通して温暖で大変住み良い場所です。そのためか急な変化を嫌う傾向があり、発展速度が他の都市にくらべて遅いという印象を受けました。

三番目に、岡山市は30万台の車が車両登録されている交通の要所ですが、市内全域において交通渋滞を感じることはほとんどなく、交通の流れが非常にスムーズであると感じました。3つの環状型道路網の構成により市内の通過交通が処理されていること、そして市内のいたるところに駐車場があるために駐車違反がほとんど見られないという点も大変印象的でした。しかし何よりも、駅ごとに設置されている自転車用駐車場やそれを市民に活用していただくよう努める岡山市の交通政策、そして公共交通を利用しようとする成熟した市民意識があることが快適な交通環境を実現している要因であると感じ、富川市市政の方向性を考える上で、岡山市の交通政策を運用していくことは大変有益であると感じました。

四番目に、岡山市では、国際福祉都市を実現するための構想として、地域情報水道化を推進しています。情報を水道水のように低廉な費用で多様なサービスを受けられるよう都市基盤を整備するという方針のもと、日本では初めて2000年から既存の下水道管を利用して光ファイバーを埋設することにより、工事期間と費用を大きく縮小させたばかりでなく、道路掘削工事による交通の妨げと騒音、振動などの環境公害も縮小させることに成功し、親環境的工法であることを学びました。韓国でも環境部が2005年から試験的に事業を実施するとので新聞報道がありましたが、富川市においても下水道管を利用することにより可能であるこのような事業は、今後積極的に導入する必要があるように思いました。

五番目に、韓国で初めて富川市において施行された下水処理水を再利用した市民の河事業は、日本の神戸地域での親水環境醸成事業が母体となりました。岡山市においても生活水準の向上に伴う水使用量の継続的な増加による水不足問題解決と、市民に親水空間を提供する各種環境福祉政策などは大変参考となり、今後、富川市が当面の下水道整備事業、水路の散歩道の設置及び子供が水に触れられる場所と親水空間の確保など、富川市の市政を解決する上で大きな参考となりました。

最後に、岡山市の観光資源をみると、日本の三大庭園の一つである日本の特別名勝地として指定されている後楽園をはじめとして、岡山城、半田山植物園、足守侍邸宅などの由緒ある文化遺跡が多く、様々な人が訪れる観光都市としての側面を持ち合わせているとともに、特に市内中心街にある西川緑道公園は日本で全国的に知られているだけでなく、市民の休憩空間としての役割を果たす、とても立派な水辺親水空間であると思われま。その他いろいろとあるのですが、以上で研修期間中に感じた点を整理し簡略に書き記してみました。本当に短い時間ではありましたが、岡山市での3ヶ月間は、これから私が富川市政を担当していく上での素晴らしい経験であり、このような経験を支えて下さった岡山市松本市民局長、井津端局長、岩谷課長をはじめとする関係職員と岡山市民にこの紙面を通して心から感謝いたします。

富川市派遣職員

氏名	全永杓 (ジョン ヨンピョ)
所属	富川市 総務課
受入期間	平成15年6月4日～平成15年8月29日
研修分野	都市緑化、都市計画、土木、上・下水道、日本語



ヘリコプターで市内を上空より視察
(左から2番目が全氏)

第14回 洛陽市技術研修生帰国

技術研修生の受入は、友好交流都市である中国洛陽市との交流事業として、昭和57年から行われ今回で14回目になります。

「忘れられない岡山」

張 文学 (チョウ ブンガク)

研修先：岡山理科大学総合情報学部情報科学科

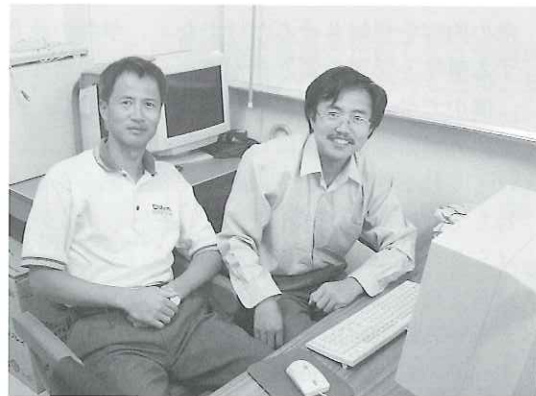
2002年10月、ちょうど中日国交正常化30周年の時に、私は第14回洛陽市技術研修生として岡山市にきました。今度の研修の主な目的は、最新のコンピューターネットワーク及びデータベース技術の応用を身に付けることです。研修場所は岡山理科大学総合情報学部情報科学科です。研修期間中に、私は研修を担当した劉先生にご指導を頂き、専門分野において向上し、大きな収穫を得て、十分満足しました。また、岡山市国際課の皆様の援助を頂き、研修生活を順調に楽しく送ることができました。一年間があつという間に過ぎて、すぐに帰国の時が来ました。皆様に心から感謝を申し上げます。岡山での研修は時間が短かったのですが、自分の人生において貴重な経験で、とても有益な一年となりました。

日本は情報処理技術が高度に発達している国です。その中に、電子商取引の応用がすでに全国に普及していて、電子政府も全国的に普及しています。そこで、私は電子商取引の先端技術を研究することを決めました。私は先生のご指導によって、ebXMLやWeb Serviceなどテクノロジー及び応用事例について学びました。多く専門の資料を参考にしました。また、Networld+Interop 2003 TokyoとWeb Service Conferenceに参加しました。最新の技術と製品を見学し、基調講演を受講して、ネットワークと電子商取引の最先端技術がよくわかりました。特に驚いたことは出展会社がほとんど日本国内の会社だということで、日本の情報科学の高度発達を肌で感じました。また、岡山理科大学での研修期間中に深く心に残った一番の印象は先生の勤務に対する真摯な態度、学生に対する親切心と優しさです。これは今後私の仕事に大いに役立つと思います。

私は日本に来たとき、飛行機の窓から見た日本諸島は青い海の中に散りばめられた緑の宝石のようで、とても美しかったです。日本滞在中に、国内の見学を通して、日本の歴史と文化をより深く知ることができました。日本は現在の経済を発展させると共に、伝統的な文化の保護を重視しており、至る所にお寺や神社など昔の建物が見られます。日本は経済大国という一面を持つだけでなく、環境も非常にいい国です。青い空に白雲がふわりと浮かんでおり、山がうっそうとした森林に覆われており、川に多くの魚が泳いでおり、夢のように美しい世界を感じます。日本は町もきれいだし、交通も便利で、それに生活も豊かです。本当に国民が幸せに暮らせる国だと思います。特に晴れの国を誇る岡山市はいい所です。雄大な岡山城、美しい後樂園、咲き乱れる桜、透き通っている旭川の水、いろいろな風景が大好きです。親切な市民、整えられた交通機関、きれいな町並みなど、様々な印象がいつまでも忘れられません。日本人は友達に対して優しいし、仕事に対して厳しく、深く心に残っています。

中日友好交流の歴史が非常に長く、漢字や風習や行事などが中国と似ていて、親しみを感じます。日本人は昔の中国をよく知っています。でも今の中国をあまり知らないと思います。いつも「これが中国にありますか」と聞きます。実は中国は日進月歩で発展している国で、日々変化しています。ですから、中日友好交流の幅を広げ、理解を深める必要があります。私はこれから中日友好交流に努力しようと思っています。

日本での研修がもうすぐ無事に終わろうとしています。もう一度岡山理科大学の劉先生と市役所国際課の皆様にも厚くお礼申し上げます。さらに、西川日本語教室の大野先生、吉田先生、福本先生には日本語のご指導を頂き、誠にありがとうございました。日本の皆様、ぜひいつか中国にいらっしやっ下さい。



右側が張氏、左側が岡山理科大学劉先生

「特別な一年」

王 宏民 (オウ コウミン)

研修先：岡山外語学院日本語科

昨年10月1日、私は日本語及び語学教授法研修生という身分で岡山に来ました。この日はちょうど中国の国慶節であり、日本で勉強するという事は、私にとって特別な意味を持っていました。中学の歴史の時間に、古代日本は多数の遣隋使、遣唐使を中国に派遣して、中国の先進文化を学んだということを習った記憶があります。私の故郷洛陽は、当時、多数の遣隋使、遣唐使が集まった場所でもあります。千余年の後、日本は科学技術方面で世界をリードする国になり、現在は中国留学生を含めた、多くの外国人留学生が日本に研修に来ており、私も洛陽から研修生としてやって参りました。洛陽市民は日本国民に友好感情を持っており、今日私が岡山で勉強、生活できることを、とても幸運だと思っています。

私の研修分野は語学教授法です。岡山市政府の手配により岡山外語学院で研修し、いつのまにか一年が過ぎ去りました。一年の間に私は日本人の教育に対する真面目さと厳格な仕事態度を体得することができました。以下、私の見解を四つの方面について述べてみたいと思います。

1. 先生の真面目な教授姿勢

岡山外語学院は専門に日本語を教授する学校です。学生の多数は中国人で、他にもオーストラリア、フランス、ロシア、韓国などの学生がいます。それぞれの国の生活習慣は異なり、学習のスタート地点や動機も異なります。先生はすべて日本語を用いて授業を行い、学生がそれに適応してないと思うと、担当の先生は学生と話しをして、早くここでの勉強と生活に適応できるように力を注いでくれます。その他、学生は各自生活条件が異なり、様々な原因で授業に出られないことがあります。担任の先生は授業の合間にその学生に電話にして、その原因を聞き、空いた時間に授業の補習をしてくれます。私はこのような先生の態度に深く感動しました。

2. 教師間の連携による教授法のより良い発展

各授業で先生は必ず出席をとり、名簿を後の時間に授業をする教師に置いておきます。最初、私はその意味がわかりませんでしたが、先生にそのことを聞いてやっと意味がわかりました。私達の先生は、すべて日本語で授業を行います。私達のような初級の学生は先生の日本語を聞き取るのはとても難解です。そこで先生は、授業でのそれぞれの学生の反応を名簿の後ろの学習状況欄に記載し、あわせて授業の内容を簡単に記録しておきます。後で授業する先生は、前に授業した先生の授業内容を学生に復習して重点を質問し、学生が自然と勉強した内容を身につけるように促しています。

3. 学習重点の各教材間の統一性

外国語の課程は一般的に主教材、文法、聞き取り、読解などに分けられます。一年を通しての学習で、文法、聞き取り、読解と主教材の内容が基本的に一致していることに気がつきました。例えば、この週の文法教材の学習内容は主教材に必ず具体的に表現されています。このような方法は、学生が学習する際に重点を容易に理解することができます。もし異なっても、教師は材料の内容を調整して、なるべく統一性を持たせるように努力しています。

4. 教授方法の柔軟多様化による分かりやすい学習

岡山外語学院の教師はすべて日本語で授業を行います。初級の学生にとって難解ではありますが、このような教授方式は人類言語の自然発展過程に適合しています。つまり、音一符号一詞一句一篇と章です。教師は初級学生に対しての授業では、おもしろい漫画やカードやジェスチャーを多く用いると同時にゲーム形式の授業を行い、単に学生に文章の内容を理解させるだけでなく、学生の注意をひくよう心がけています。このようなことにより、学生の学習に対する興味と学習の質と量が高められ、学習がより生き生きとしたものになっています。

岡山で学んだ一年間で、私は日本人の友好を深く感じました。岡山外語学院の先生は私達を気にかけてくれ、熱意をもって助けてくれました。とくに私の担任である中島正恵先生は仕事に対して大きな責任感を持ち、自ら作られた多種多様な絵教材には忘れられないくらいに感動を受けました。川口智子先生のテキストの正確で細かな分析や利守先生のユーモアのあるジェスチャーには深い印象をもっています。その他、岡山外語学院のすべての先生と職員、岡山市国際課の皆様の一年にわたる私への援助は生涯忘れがたいものです。私は日本国民の友好感情を洛陽市民に伝えたいと思っています。今後私は日中両国民の相互理解と代々の友好に尽力したいと思います。



日本語研修中の王氏